



編集・発行
島根県益田市須子町3-1
益田地区保護司会



廣田保祐さん所有 牡丹園

第七十回 「社会を明るくする運動」

作文コンテスト・・・3P
6P



それぞれの立場において意識し行動していくこと

松江保護観察所 所長 西江尚人

平素は、犯罪や非行のな
い安全・安心な地域づくり
のために、御理解・御協力
賜り誠にありがとうございます
ます。また、昨今は新型コ
ロナに配慮しつつ、献身的
に御活動いただき、心より
感謝申し上げます。

そのコロナ禍、ほっこりす
る新聞記事を目にしました。
それは、「善意の作業着でエー

ルく心遣い、再起の力に」
というタイトル。概要は、県
内高校生が、不要となる作業
着を更生保護施設の利用者あ
てに、寄贈を続けているとい
う内容でした。
「社会を明るくする運動」
は、犯罪や非行の防止と、
過ちを犯した人の立ち直り
について理解を深め、安全
で安心な地域社会を築きた

めの全国的な運動です。先
に紹介した高校生のように、
それぞれの立場において意
識し行動していくことが、過
ちを犯した人を再び地域の
中で受け入れ、ひいては責
任ある社会の一員に生まれ
変わることに繋がっていき
ます。どうぞ皆様方のお力
添えを賜りますよう、よろ
しくお願い申し上げます。



安全・安心な地域社会の実現のために

益田市長 山本浩章

益田地区保護司会の皆
様、そして地域の皆様にお
かれましては、日頃より
更生保護活動に対しご
尽力をいただき、心から
感謝申し上げます。

毎年の七月は「社会を明
るくする運動」の強化月
間となっています。この
取り組みは、全ての国民
が犯罪の防止と犯罪者の
矯正および更生保護に

切な事です。
こうした中、安心して
暮らせる地域社会を実現
するためには、地域社会
の理解と協力、関係機関
との連携が大切で、地域
に詳しい保護司の皆様が
力が必要です。今後もご
理解、ご協力を賜ります
ようお願い申し上げます。

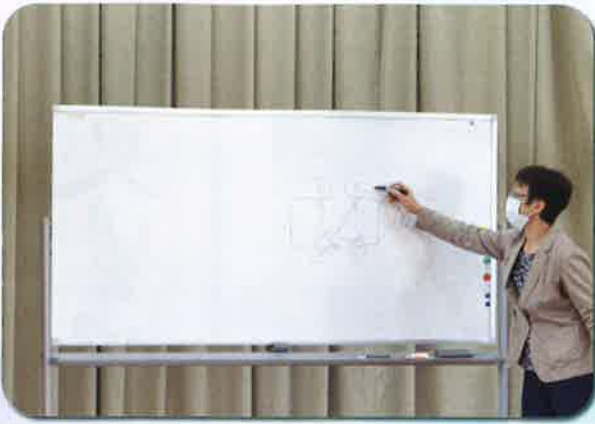
毎年七月は「社会を明
るくする運動」の強化月
間となっています。この
取り組みは、全ての国民
が犯罪の防止と犯罪者の
矯正および更生保護に

ついての正しい理解を深
め、進んでこれらの活動
に協力するように呼びか
ける啓発活動で、今年で
七十一回目を迎えます。
さて、罪を犯した人を
処罰することは必要な事
ですが、立ち直ろうと決
意した人を社会で受け入
れることや、犯罪や非行
を生み出さない家庭や環
境づくりをすることも大

令和2年度益田地区保護司会保護司研修結果について

益田地区保護司会研修部会長 杉原寛臣

令和2年11月16日(月) 益田市 総合福祉センター研修室において 看護師資格を持つ同僚の大畑モト子保護司を講師に迎え、「コロナ禍における保護司活動に関する注意事項について」と題し、会場へ入場する際は検温、手指消毒、マスク着用をお願いをし、人と人との距離、換気などの対策を取り保護司会員47名の参加で講演会を開催しました。



講演会では、私たち保護司に関わりのある「対象者との面接」は重要な活動であり、面接者として対象者に感染させることは絶対避けなければならないし、また、私たちが知らないうちに感染してしまいう事も避けなければならないと述べられ、感染防止については、「接触感染防止」と「飛沫感染防止」の2点を中心に次のことについて紹介がありました。消毒薬は何が良いか、どんなところを拭けば良いか、正しい手洗い、安全な会食、マスクとフェイスシールドの違い、正しい換気、面接者と対象者との座る間隔……などステージ上で実技を交えながら講演をしていただきました。

また、面接前に実施すべきこととして、対象者やその家族の方の健康、対象者の行動範囲のチェックなどが挙げられ、異常があるときは「電話での面接」も考慮に入れているかなければならないなど、1時間半に亘って貴重な講演をい

ただきました。

未だ新型コロナウイルス感染が予断を許さない中、人々の生活にも大きな変化が生まれ、社会の在り方も問い直されている昨今にあって、我々保護司も、新たな局面を迎えておりますが、新しいスタイルの保護司活動はどのような形にあるべきか一考させられる研修会でした。



第七十回 “社会を明るくする運動” 作文コンテスト

小学生の部

島根県BBS連盟会長賞



吉賀町立六日市小学校
五年

内田 寿々々

「ストレスを生まない社会」

最近、虐待のニュースを目にすることが多くなった気がします。虐待は、小さな子どもでも亡くなってしまうほど怖いものです。虐待は、親である大人が暴力をふるったり、ご飯をあげなかったりする悲しいことですが、そのニュースを目にする度に、少しでも私にできることはないかと考え

ていました。

最近、二十代の母親が、三歳の娘を置いて一週間ほど鹿児島へ行き、子どもを死なせてしまった事件がありました。そのニュースを知り、虐待された子どもはもちろんですが、私は、母親のことが気になりました。私とその母親の娘の立場だったら、怖くて怖くてたえられません。でも、子ども一人を置いて旅行をした母親の気持ちも分かる気がします。たった一人で子育てをしていたらストレスがたまると思います。まだ三歳の小さな子どもを育てることは、とても簡単なことではないと思います。しかし、虐待をしてもよいという理由にはなりません。なぜ、母親は虐待をしてしまったのでしょうか。原因は、やはり大きなストレスがかかっていたからだと思います。母親はきつと自分のことで一杯だったのでしょうか。父親が居なくて、虐待までされた子どもはもちろんかわいそうですが、一人で育てていた母親もつらく、大変

だったと思います。母親の大変さが少しでも軽くなれば虐待は起こらなかったのかもしれませんが。

この悲しい出来事を通して、虐待とはどれほど怖いことなのか考えました。子どもは、どのような気持ちだったのでしょうか。きっと心の中は、「怖い」と「さみしい」という気持ちだったと思います。急に親の態度が変わる。そんな時、一番の怖さを感じていたと思います。そして、それが小さいころから続いていたと思うと、悲しくてたまりません。そして、一週間という途方もなく長い期間を一人で過ごしていた時間は、とてもさみしかったと思います。ずっと誰にも会えず、何も食べられず、助けを呼ぶこともできないという状況は、さびしく、辛かったことだと思います。そんな思いをする人が、いない世の中になってほしいです。

どうしたら、虐待が無くなり、悲しい思いをする人が減るのでしょうか。私は、ストレスがたまらない世の中になっていくことが大切だと思います。そのためには、誰かに相談できるようになっていれ

ばよいのではないかと思います。今回の事件も、一人で抱え込まず、気軽に誰かに相談できている命は助かったのではないかと思います。一人で子育てすることはとても大変なことだと皆さんも知っていることだと思います。だから、気軽に相談できるような世の中になればと思います。相談してみると、少しは気持ちが軽くなると思います。私は、母とけんかしてしまった時、友達や他の家族にその事を相談することで気持ちが軽くなったことがあります。このように、誰にでもいいので、一人で抱え込まず、相談できるようにして、虐待の無い世の中になっていってほしいと思います。



中学生の部

島根県更生保護
女性連盟会長賞吉賀町立柿木中学校
三年

齋藤 のどか

「コロナ禍の中で」

私は、世界中で流行している新型コロナウイルスをきっかけに、差別について深く考えさせられました。

ニュースでよく報道されていたのは、県外ナンバーの車に対する嫌がらせ行為や、海外に住むアジア系の人が、心ない言葉を言われているといったものでした。それを見たとき、私はすごく心が痛くなりました。差別がこれほどまでに恐ろしく、感染症がこんなにも

人を加害者に変えてしまうのかと実感しました。私は今までに県外ナンバーを見ても、外国人の方を見ても、何も感じなかったし、差別してやろうなどと思ったことはありませんでした。しかし、新型コロナウイルスが流行してから、県外ナンバーの車を見ると、無意識に嫌だなと思ってしまったり、「なんで今来るの?」と思ったり、怖いなど思ってしまった。自分があることに気がつきました。私も知らない間に差別をしてしまっているのだと気づきました。コロナ流行の時に、出歩かないほうが良いのだという自分の考えが正しいと思いつくことで、誰かを傷つけたり攻撃したりしている人たちが私だけではなく、世界中にいると思うと、だんだん怖くなってきました。

県内でコロナ感染者が出た時も、犯人捜しのような内容がネットに出たり、その人を特定した後には、その人に対する誹謗中傷もたくさん寄せられたとも聞きました。そのことでその人は今住んでいるところにいられなくなったり、職をやめざるを得ないという

こともあると聞きました。

差別がひどくなると、それはもう犯罪だと思えます。そして、だれでも犯罪者、加害者になる危険性をもっているのです。そうならなかったために、今の私にできることを考えてみました。一つは、確信のない情報は広めないということです。私はSNSの情報を信じすぎってしまう傾向があります。間違った情報でも、自分が正しいと思えば、拡散してしまう恐れがあるのです。だから、これからは、ネットにある情報をきちんと見極め、誰かを傷つけないようにする努力をしたいです。

二つ目は、私の周りでも、もし差別をしている人がいたら、その人が加害者になる前に、止めてあげたいです。

そして最後は、差別を受けた人がいたならば、その人に寄り添い、少しでも気持ちを楽しませてあげることです。直接的な解決はしてあげられないかもしれないけれど、相談にのることはできると思います。

この三つのことを意識して生活していけば、私の周りの社会は

きっと明るくなるのではないかと思います。そして、このことをたくさんの方が意識して生活すれば、優しさに包まれる社会になると思っています。



小学生の部

法務大臣賞（最優秀賞）

和歌山県

村井優希

「心の目」

「自分だけ、楽しければいいんじゃないんだ。みんなが、毎日ニコニコしてられるようにねがっていたよ。」これは、「ブツダがせいせい」という本の一節です。

ブツダは、どんな人も、どんな生き物もわけへだてなく、みんながしあわせになってほしいと願っていました。私は、この本を祖母からもらい、母に、「何かいやだなあー」「つらいなあー」って思った時に読むようにすすめられました。母もまた、「自分もそうしているの。」と話してくれました。

私の母はお寺で育ちました。お寺には、色んな事情をかかえた人たちが来る事が多いそうです。昔、悪いことをして刑務所にいた

人。つい自分の欲のためにお寺や神社のおさいせんをぬすんでしまった人。過ちをおかしてしまつて、自ら命を絶つてしまつた人。身よりのない人…。その度、祖父と祖母はそんな方たちに対応している姿を母は、子供のころから見てきたそうです。

その中で、母が一番印象に残っていることを話してくれました。昔、罪をおかしてしまつた青年がこうせいし、結こんをして子供が産まれたので祖父と祖母に見せに来てくれたそうです。祖母は、その赤ちゃんを本当にうれしそうに顔をして抱っこしていた姿を母は忘れられないそうです。

この話を聞いた時、私は正直心の中で「え？」と、疑問に思いました。なぜなら、私だつたら刑務所から出てきた人にそんな対応ができないと思つたからです。差別やへん見はダメな事だと心では分かっていますが、いざ目の前にそんな人がいたら、やさしくしなくては。でも、悪い事したんでしょ。と心の中であつとうすると思いません。この心の中のものやもやを、母に話しました。すると、母は「正

直な気持ちだと思うよ。なかなか簡単に受け入れるのは難しいよ。でも、反省し変わることでできた人に寄りそい「がんばつたね」つて心の支えになつてあげることは大切なんじゃないかな。」と言っていました。この言葉を聞いて、祖父、祖母の対応に理解でき心の目で大切なものを見る事を学びました。

私の妹は、生まれつき両目がしゃ視です。小さい頃に手術をしました。まだ左目だけが治つていません。ある日、学校から帰つてきて、ママに抱きついて「目がへんと言われた。」と大泣きしました。あんなに泣いた妹を見たのは初めてだったので、ものすごく悲しかったんだと思います。私は、その言葉を言つた友達が許せず腹が立ちました。ママと妹に「その友達になぜそんなことをいつたの？と聞けば？」と言いました。二人は首をふりました。「あなたは、目の事を知っているからだけど。もし知らなかつたら目の前に同じような人がいたら、心の中でその子と同じように思うかもしれないよ。だからまずは、先生に目の事をみ

んなに話してもらうね。」と言つて妹を抱きしめて「辛かつたね。悲しかったね。」となくさめていました。私は、この事を思いだし、自分は矛盾しているなあと思つきました。自分の妹が言われた時は腹が立ち、自分は祖父母の対応に理解できず…。今一度、自分の行動を見直すべきだと思ひました。

ブツダが言つたようにみんながしあわせでいられる世の中を作るためには、私も含めこれからの社会を背負つていく人達一人一人が自分の行動に気をつけて、だれかを傷ついたりせずによさしく、正しく、強い心の持ち主になれたらいいなあと思ひました。

そして、祖父母や母のように相手の気持ちに寄りそえる心の目を持つた人になりたいと思ひました。



中学生の部

法務大臣賞（最優秀賞）

兵庫県

藤井 怜子

「見逃さないで！「助けて」のサイン」

「ブー」。この音を聞くとドキッとします。これは万引き防止の防犯ブザーの音です。レジを通っていない商品が店の外に持ち出されると、店の出入口でこの音が鳴ります。

私の家は書店です。本や雑誌、コミックスの他に、文房具も販売しています。私の祖母、そして母が、五十年以上も地域の人や子供達のために切り盛りしてきたお店です。

長い間お店をしていると、万引きにも遭います。あの「ブー」という音が鳴ると、一日中気分が悪い、と祖父は言います。

「万引き」というと「罪」が付いていないだけで犯罪の一手手前のような印象がありますが、子供だろうと大人だろうと、立派な窃盗罪です。それなのに、まるでゲーム感覚で、自分の欲望のまま、我が家の財産を盗んで行くのです。

私は万引き犯をどうしても許せません。祖母や母に、万引き犯にどのように対処しているのか、尋ねました。

万引きは、地域柄、小・中学生に多いです。祖母や母は、入ってきた瞬間に「万引きをしそうな子」が分かるそうです。目つきが違うのです。そんな子が入店してくると、緊張が走ります。絶対に目を離しません。あまりジロジロ見ると失礼なので、必ず視界に入るように立ち、知らんぷりをします。しかし、店員は万引き犯を捕まえることが仕事ではありません。万引きを未然に防ぐこと、子供に罪を犯させないことが仕事なのです。おかしいな、と思った子には、必ず目を見て、笑顔で声掛けをします。「いらっしやいませ」「何かお探ですか？」相手に、あなたのこと見ていますよ、とアピールします。これで大抵の万引きを未然に防ぐことができます。

ところが、それでも防げないことがあります。そんな時、心の中で見抜けなかったことを悔やみつっ、なぜ盗んでしまったのか、子供の話をよく聞くようにしています。祖母も母も決して声を荒げません。なぜ盗つてはいけなかったのか、このままだとうなるのかをわかりやすく丁寧に話します。すると大抵の子がポロポロと泣き出すのだそうです。叱られて泣いているのではなく、大変なことをしてしまったという焦りと、心に溜めていたものが決壊した涙のように思えます。

万引きをする子の殆どは、家庭に問題があります。それは親に迎えて来てもらった時にわかりません。商品代金を払えば済むと思っ飛ぶまで殴る親、「またか」と言うように驚きもしない親。両親の仲が悪く、喧嘩ばかりしていたり、父親又は母親がいなかったりと、家でぼつんと寂しそうな子供の様子が目に浮かびます。

万引きは心のSOSです。誰も罪など犯したくありません。寂しい・構って・見て・笑って。親、特にお母さんに切実なメッセージを送り続けた、最終手段なのだと思います。

だから私の祖母は必ず迎えに来た親に、「子供さんの話をよく聞いて、じっくり話合つて下さい。」とお願ひし、万引きした子には「今度は気持ちよくお買い物しに来てね。」と送り出します。書店員の仕事はここまでです。悔い改め更生させる本当の力は、家族しか持ち得ないのだと私は思います。

小中学生の万引きをなくするには、まずは家庭からです。日頃から様子をよく観察し、子供が出す「助けて」のサインを家族にいち早く察知してほしいのです。

一番わかりやすいサインが、持ち物です。万引きをしていると、買ってあげた覚えのない、或いは与えたお小遣い以上の金額の文房具や漫画、お菓子が増えてきます。それに気付いた時、きつと最近ゆつくり子供と対話していないことにも気付

くでしょう。私の母は本当に大切な話をする時、私の手を握りながら話します。緊張した冷たい私の手が、母の手に温められ、いつもより素直に話せるような気がします。だから子供のサインに気付いたら、優しく手を握って、目をしっかりと合わせて話をしてほしいのです。人の手のぬくもりが、その子を犯罪の道から救うのです。

そしてこれは本屋で育つた私だからこそ言えるのですが、家庭で読み聞かせをよくしてほしいと思います。

万引きをする子は「イライラしていたから。」とよく言います。イライラの原因は様々ですが、結局自分は何に苛立っているのか、言葉でうまく表現できないからイライラしているのだと思います。親子で読書、読み聞かせをすることで、語彙が増えるだけでなく、親子の絆も強くなります。読み聞かせをよくする家庭に暴力も虐待もありません。一日たった一話でも、親子で一緒に楽しむ時間があれば、心のすれ違いはなくなると確信しています。

家庭や地域の大人達の温かい眼差しや声掛け、そして豊かな愛情が子供達の心身を健康にし、共に明るい社会を築くことができるのだと、万引きの問題を通じて知りました。



第七十回『社会を明るくする運動』

令和二年七月一日「第七十回社会を明るくする運動」のメッセージ
伝達式が益田市・津和野町・吉賀町で行なわれました。

益
田
市



津
和
野
町



吉
賀
町



表彰

令和二年春叙勲・褒章

(敬称略)

瑞宝双光章

福郷孝司(益田)

法務大臣表彰

(保護司)

岡崎卓子(益田)

全国保護司連盟理事長表彰

(保護司)

中村勇(益田)

大庭完(益田)

大内宗泰(鹿足)

田中勝治(益田)

中国地方更生保護委員会

委員長表彰

(保護司)

田村眞知子(鹿足)

西蔭孝尚(鹿足)

中国地方更生保護委員会

委員長感謝状

(更生保護女性会員)

藤田弘子(益田)

永岡昭恵(益田)

中国地方保護司連盟会長表彰

(保護司)

石田悦子(益田)

古永千恵美(鹿足)

中国地方更生保護女性連盟
会長表彰

(更生保護女性会員)

中村明子(益田)

品川サツキ(益田)

水崎初枝(鹿足)

大内康子(鹿足)

松江保護観察所長表彰

(保護司)

村上朱美(益田)

田村武司(益田)

本田行信(益田)

川崎典子(益田)

関口晃司(益田)

松江保護観察所長感謝状

(更生保護女性会員)

吉岡艶子(益田)

宮内光子(益田)

宅野和江(益田)

名田眞知子(益田)

渋谷十茂子(益田)

田中恵子(益田)

椋中淳子(益田)

大石悦子(益田)

定金千代子(益田)

中庭茂子(益田)

大庭咲子(益田)

中岡豊美(鹿足)

矢部愛子(鹿足)

岸田美江子(鹿足)

斎藤文江(鹿足)

藤原喜久枝(鹿足)

村上さち子(鹿足)

城市幸江(鹿足)

島根県保護司会連合会
会長表彰

(保護司)

石井正(鹿足)

大庭和子(鹿足)

島根保護観察協会理事長感謝状

(特別会員永年協力者)

伸和産業(株) 篠原 憲(益田)

遍照寺 西蔭孝尚(鹿足)

(賛助永年会員)

岡田克也(鹿足)

保護司の異動(敬称略)

退任

令和2年11月30日

蔵本知宏(益田)

令和3年6月30日

大庭完(益田)

新任

令和3年6月1日

寺戸政人(益田)

西迫洋暢(益田)

保護観察協会会員
加入についてのお願い

保護観察協会は、地域の環境を改善浄化して、犯罪者を出さないよう、また、不幸にして罪を犯した人には温かい手を差し伸べ、更生を助けて、明るい社会を築く更生保護事業に物心両面のご協力を賜っている会でございます。保護司が訪問いたしますので、ご加入の方よろしくお願いたします。

2020年度 島根保護観察協会
会費受領合計表(益田地区保護司会)

種別	会費	人数	金額
特別会員	10,000	50	500,000
賛助会員	5,000	55	275,000
協力会員	3,000	85	255,000
普通会员	2,000	29	58,000
普通会员	1,000	702	702,000
合計		921	1,790,000

保護観察協会員の皆様へ
保護事業のためにご協力いただき厚くお礼申し上げます。

毎月 第3日曜日は

家庭の日

おあしす運動

- おはよう。
- ありがとう。
- しつれいします。
- すみません。

大人が変われば
子供が変わる